

課題番号 1

持続可能な農業経営に向けて

～ 輪作の推進と花き生産力の維持 ～

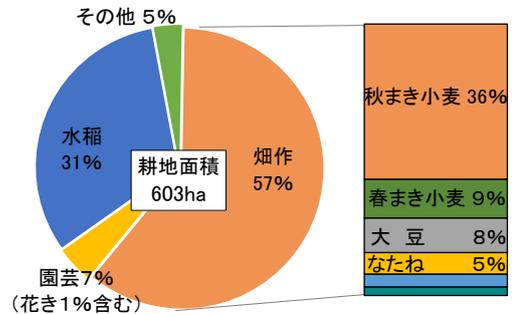
対象：岩見沢市栗沢町越前・自協地区（22戸）

1 活動の背景

- ・ 水稲、畑作を主体に園芸（ひまわり等）が作付け
- ・ 基幹作物の秋まき小麦は収量の年次変動が大きい
直播水稲が新規導入・拡大（R4 3戸 → R5 10戸）

⇒ 課題：輪作の推進と花き生産力の維持

- ・ 秋まき小麦、乾田直播水稲の安定生産
- ・ 原価分析で経営課題を見える化
- ・ 高収益作物の花きで所得確保



2 活動の経過

(1) 輪作の推進

○秋まき小麦の安定生産
「きたほなみ」生育に応じた施肥
「キタノカオリ」赤さび病適期防除



農産協会と連携した研修会



農業者ほ場で研修会を実施

○乾田直播水稲の安定生産
苗立率確保に向けたほ場準備
適正は種、適正施肥



は種時のほ場巡回



重点農業者ほ場で研修会を実施

○原価分析で課題整理
品目構成の最適化
生産費・収益の見える化



個別経営面談の様子



データ入力会

(2) 花き生産力の維持

○基本技術の実践 土壌診断による pH改善 発生予察



低pHによる生育不良を確認



予察情報を共有



高温対策の情報提供

3 成果の具体的内容

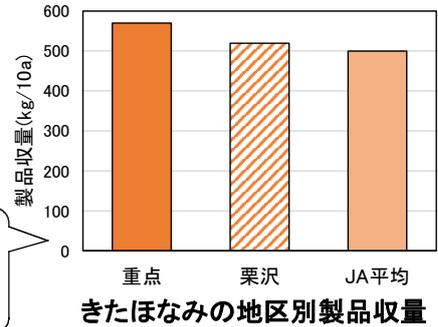
(1) 輪作の推進

○秋まき小麦の安定生産技術の実践 **【実践農家戸数 目標11戸⇒実績8戸】**

秋まき小麦作付者における安定生産技術の実践に対する達成度

安定生産技術項目	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
	きたほなみ						キタノカオリ						
生育量に応じた 適正肥培管理	○	○	-	○	○	-	○	/	/	/	/	/	/
病害虫防除の 適正化	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	-	○	○
pH改善 (R6年産)	○	○	/	○	○	-	-	○	○	○	○	○	○
適正は種量 (R6年産)	-	○	/	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
総合評価	-	○	/	○	○	-	-	○	○	-	○	○	○

重点地区の製品
出荷収量はJA平
均を上回った。



○乾田直播水稻の安定生産技術実践 **【実践農家戸数 目標8戸⇒実績10戸】**

乾田直播水稻作付者における安定生産技術の実践に対する達成度

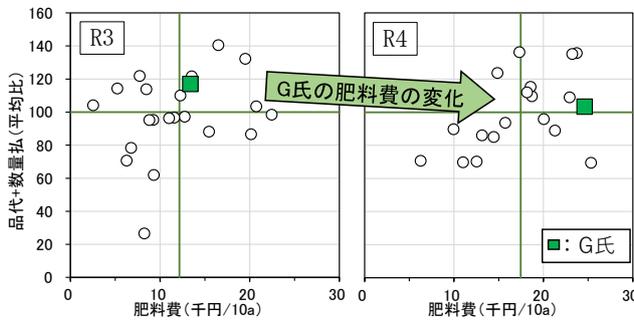
安定生産技術項目		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
ほ場準備	粗耕起	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
	心土破砕	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
	均平	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	鎮圧	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	砕土率	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○
適正は種	水回り整備	○	○	○	○	-	-	-	○	-	○
	は種量	○	-	-	-	-	○	○	○	○	○
	は種日	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○
適正肥培 管理	は種精度	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○
	施肥設計と生育に 応じた追肥判断	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
総合評価	7項目実施で達成	○									

乾きづらいほ場だった
けど、ちょうど良い砕土
率になって良かった。



◎初めて乾田直播に取り組んだ7戸を含む全戸が
安定生産技術を実践できた。

○経営分析による課題整理 **【実践農家戸数 目標8戸⇒実績10戸】**



分析例:きたほなみの肥料費と品代+数量比

皆と肥料費がこんな
に違うんだ。令和6
年度から見直そう。



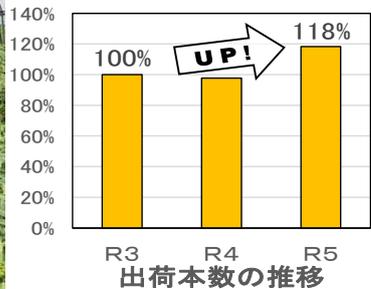
◎生産費の変化を把握し、地域との比較が
できた。経営の課題整理につながった。

(2) 花き生産力の維持

○基本技術の実践 **【実践農家戸数 目標4戸⇒実績2戸】**

ひまわりの基本技術の実践の到達度

	A	B	C	D	E	F
適正施肥	△	△	△	△	○	△
高温対策	△	△	△	○	△	△
適期採花	-	○	○	-	○	○
適期防除	△	○	△	△	○	△
発芽率向上	○	○	○	○	○	○
総合	△	○	△	△	○	△



◎出荷本数、販売金額ともに増加した!!

4 今後の課題と対応

- ・ 収益を維持した中期的な輪作体系を可能とする、水田の汎用化に向けて支援を行う。
- ・ これまで蓄積した経営分析データを基に、経営改善手法の実践を支援する。
- ・ ひまわりの基本技術の実践と多様な人材を活かした労働環境づくりを支援する。